

平成二十七年三月十一日

東日本大震災 物故者慰霊祭



巖 神 青

震災後四度目の慰霊祭。

午後二時四六分。御参列の皆様と共に御霊の御安寧と、早期復興、そして未だ戻らない二、五八四名の方々が一日も早く御家族の元に戻られますように祈りを込めながら目を閉じました。

東北六県神道青年協議会主催の慰霊祭。

本年は当県陸前高田市今泉天満宮境内を斎場とし、東北六県神道青年協議会櫻谷議長が斎主を務められ、氏子の皆様、県内外の御来賓、全国の神青協役員、東北六県神青会員が参列の下、厳粛に斎行されました。

岩手県神社庁気仙支部荒木支部長様、全国神青協役員の皆様、当県吉田会長を始め御奉仕頂いた東北六県神道青年協議会祭員の皆様。

伶人は当県会員にて御奉仕させて頂きました。

慰霊祭後は大船渡温泉に会場を移し、気仙支部の皆様と共に直会を開催させて頂きました。

明治天皇御製

敷島の 大和心の をし
さは 事ある時ぞ あらわ
れにける

私達日本人が古来より持つ
っている勇敢で雄々しき心
は我が国が困難に陥った時
にこそ発揮される。
今だからこそ雄々しき心を
もう一度。

未だ厳しい道程を歩む東北地区。先の見えない道とは
言え、これからも相携え、
労り合い、変わらず共に歩
んで参りましょう。

創立六十五周年記念事業

「稲刈り行事」



先の十月十八日、北上市和賀町の稲葉神社の御斎田において岩手県神道青年会創立六十五周年記念事業「瑞穂の国復興米づくり」稲刈り行事が行われた。

当日は早朝から雨となり、天気予報の情報により雨天中止の情報が流れたが、その後の天気状況と収穫時期の兼ね合いを鑑み、参加できる者のみでの開催となった。

悪天候にも関わらず吉田会長以下十二名の会員と七名の子供たちの参加で行事は行われた。

はじめに開会式を行った後、午後二時から拔穂祭が斎行された。次いで参加した子供たちと会員により稲刈りが行われた。稲刈りは、昔ながらの手刈りにて行われ、会員が子供たちを指導しながら手際よく稲刈りが行われ

た。おしまいに、稲葉神社宮司菊池頭裕様のご指導のもと全員が協力して「はせがけ」（昔ながらの稲穂の天日干し方法）を行った。

五月にお田植え行事を行い、皆で見守り大切に育ててきた稲穂が、収穫時期を迎えたわに実り、私たちに収穫の喜びを感じさせてくれた貴重な一日であった。



創立六十五周年記念事業

「収穫感謝行事」



先の一月二十四日、奥州市水沢区に鎮座する駒形神社において岩手県神道青年会創立六十五周年記念事業「瑞穂の国復興米づくり」収穫感謝行事が行われた。

当日は、吉田会長以下会員十三名、子供三十六名、父母五名の参加で行事が行われた。

はじめに収穫感謝祭が駒形神社の本殿で執り行われ、その後、餅つき大会が行われた。当日は天候にも恵まれ、境内参道での餅つき大会となった。子供たちは臼の前に列になり順番に餅つきを楽しんでいる様子であった。

餅つきが終わると、室内（龍昇殿）へ移動し「稲刈り行事」で収穫したお米でおにぎり作り体験を行った。

おにぎりとお餅ができると、昼食の時間となった。



子供たちは、自分たちで作ったおにぎりと、自分たちでついたお餅を美味しそうに食べていた。子供も大人も笑顔の絶えない一日となった

岩手県神道青年会

創立六十五周年記念式典・記念講演・記念祝賀会



準備風景

当会は昭和二十四年に設立され、以来諸先輩方の熱き想いを受け継ぎ変わらぬ活動を続けております。

今大会は「繋心 く未来へ 繋ぐ心とところ」と題し、誇りある日本、美しい日本、また、その中で育まれる美しい心や感性を次世代に繋ぐ事を目的とし開催致しました。



司会を務めた2名



受付



記念講演には、公益社団法人日本青年会議所主催国家確立委員会の皆様をお招きし、「領土・領海意識醸成プログラム」と題しご講演頂きました。



した。我が国の領土・領海について改めて認識を深め、北方領土は勿論のこと竹島、尖閣諸島を始めとする固有の領土に対する他国の干渉にどの様に対抗していくのか、そして自らの言葉でそれを伝えていく重要性を実感致しました。



開放的な新崇敬殿で行われた祝賀会では一年を通して行われた記念事業「瑞穂の国復興米づくり」の報告も行われ、御臨席頂いた先輩方、全国、東北から御参集の同志と共に記念の時を祝い盛大且つ賑やかな祝賀会となりました。



戦後の混乱期に先輩方により民族精神の恢復と国家の再興を目指し発足された岩手県神道青年会。
受け継いだ想い、私達を守るべきもの、変えるべきもの、そして新たに成すべきもの。
主題の通り繋いだ心を確実に次世代に。震災からの復興と共に本来の美しい国づくりに向けて、これからも変わらず歩んで参ります。

創立六十五周年記念事業 神宮への懸税奉納

岩手県神道青年会創立六十五周年記念事業「瑞穂の国復興米づくり」において収穫されたお米「ひとめぼれ」を懸税として神宮へ奉納させて頂き、岩手県神社庁を通じて伊勢へと送られた。

この一年の米づくりの行程を経て、私たちは改めて作物を育む苦労と収穫の喜び、食する事への感謝、これら日本ならではの「こころ」を思い起こしたのではないだろうか。また、人として、神職として、この大切なところを次世代へと継承していかなければならぬ使命を身をもつて痛感し、震災からの復興がいち早く実現するようお願い、本来の務めである日々

の祈りと共に、行動し、実践に努めていきたいと感じた。



創立六十五周年記念事業 被災地への事業米奉納

岩手県神道青年会創立六十五周年記念「瑞穂の国復興米づくり」事業は、この一年を通じて米作りに取り組み、去る十一月十八日、無事に抜穂祭を斎行することができた。

本事業にて収穫されたお米を震災早期復興の祈りと共に沿岸部神社へと奉献さ

せていただく為、包装及び発送作業が行われた。

作業は去る十二月八日、斎田をご提供いただいている稲葉神社宮司・菊池顕裕様御自宅において菅原実行委員長はじめ六名にて行われ、袋詰めされたお米に書状を添え、沿岸部計五十一の神社へと発送された。

奉献米奉納先からは、その後御礼の連絡を数多く頂戴し、震災復興と斯界発展の為



に、会員一同一丸となつて尚一層精進していかうと改めて心に誓った活動であつた。

建国記念の日 啓発活動

県建国記念日奉祝会が主催している建国記念の日大会には、当会は例年、大会周知の街宣活動を行っているが、本年は独自に啓発活動として県内を巡り、また当日は運営スタッフとして助勢活動を行った。

啓発活動は、一月末から二月上旬にかけて、内陸・沿岸を会長以下が各社を訪ね、ポスター等を配布した。

大会当日は岩手県民会館にて大会資料等の搬入、会場内外の設営を主とした活動を行った。

【時局対策委員会活動報告】

第四十七回衆議院議員総選挙に 拘わる時局活動を振り返って 時局対策委員長 鈴木 都宏

先ず以て、突然の国政選挙にも拘わらずご尽力頂きました、青年隊員の皆様に衷心より感謝申し上げます。

さて、今日になり振りかえってみると、鑑みる事も出来ず唯々猪突猛進の如く、突き抜けただけの活動であったような気が致します。



十一月二十六日より告示

日前日の十三日迄の計十八日間は、青年神職が青年隊を組織して臨む初めての選挙応援活動でございました。各陣営の方々との面識もなく、どのような活動をすればいいのか、皆目見当もつかないままの始まりに戸惑いも感じておりましたが、各陣営に協力のご依頼に伺った際は、各陣営とも拒むどころか、「宜しく願いたい。」と思う思いもしない温かい言葉をいただきお願いに伺った私の方が、拍子抜けしたような感じでしたが、掲示板ポスター貼りや証紙貼りなど、各陣

営の内部に入らなければ経験しえない活動を体験できた事に感謝すると共に、選挙応援活動は基より今回の活動でご協力させて頂いた代議士を始め秘書又スタッフの方々とのご縁を今後の神社界での本分である神道教化・憲法改正署名活動・国旗小旗頒布活動等に反映させる事こそが、神道政治連盟岩手県本部の主たる願いなのではないかと思う所であります。



結びに、今回このような機会を与えて下さいました、神道政治連盟岩手県本部役員の皆様に衷心より感謝申し上げます。結びとさせて頂きました。誠にありがとうございます。

臨時総会並びに 会員懇親会

去る十一月二十五日、花巻市の山の神温泉「優香苑」を会場に臨時総会と会員懇親会が行なわれた。

臨時総会では、次期会長・副会長三名が選出され、総会に出席した役員、または会員からの承認を得られ、無事終了した。



総会終了後、宴会場に場所

を移し、岩手県神社庁庁長藤原隆磨様、副町長稲田典之様、そして懇親会の会場でもある花巻支部の支部長新山敏春様を来賓としてお迎えし、二十六年最後の会員懇親会が行なわれた。懇親会には吉田会長をはじめ、三十三名の会員が出席し懇親を深め、来たる大麻頒布や正月に向けて英気を養った。

盛岡少年刑務所並びに 少年院収穫感謝祭斎行

去る十月二十五日、盛岡市の盛岡少年刑務所にて、また十一月十九日、盛岡市の盛岡少年院にて例年執り行われている収穫感謝祭が今年も斎行された。

少年刑務所には吉田会長

以下三名、少年院には伊藤副会長以下三名の会員が早朝に集合し祭場を準備し、祭儀が執り行われた。

収穫感謝祭では教誨師として出席された、岩手県神社庁理事一條善人様に典儀と報鼓をご奉仕戴いた。祭儀は、一條様の法螺貝の吹奏による参進で始まり、献饌には少年刑務所また少年院で収穫された野菜が三方二台に盛りつけられ、少年刑務所また少年院の代表二名と祭員による伝供にて神前に供えられ、肅々と斎行された。

編集後記

事務局が作成していた「岩手神青」を広報委員会が引き継ぎ、二年間が経過しました。委員が長所を生かし、短所を補いながら誌面の充実に努めて参りましたが、この号をもって二年間の任期を終了し、次期の広報委員会にバトンタッチとなります。

年に四回の発行を目標としながらも思うように編集が進まず、今回も大幅に量が多くなってしまいましたがそれは活動の充実の成果とお許しいただき、皆様に感謝申し上げます。(威)

発行 岩手県神道青年会
住所 盛岡市八幡町十三番一号 盛岡八幡宮社務所内
電話 〇一九・六五二・五二二一
FAX 〇一九・六五二・五二二二